

30年1月分 合板工場の荷動き・価格先行き動向調査 1

1. 調査実施期間 平成30年 1月4日～ 30年1月15日

2. 調査実施方法

全国の合板工場-1に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
1月分の回答企業数は7社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) 国産原木入荷動向 Weight. D. I.

品目		30/1月	2月	3月
入荷動向	スギ	△ 16.7	0.0	10.0
	ヒノキ	△ 37.5	0.0	0.0
	カラマツ	△ 8.3	△ 10.0	0.0
	トドマツ	0.0	16.7	33.3
消費動向	スギ	0.0	10.0	30.0
	ヒノキ	0.0	25.0	25.0
	カラマツ	0.0	0.0	10.0
	トドマツ	△ 33.3	△ 16.7	0.0
在庫動向	スギ	0.0	△ 10.0	△ 10.0
	ヒノキ	△ 25.0	△ 12.5	△ 12.5
	カラマツ	0.0	△ 10.0	△ 10.0
	トドマツ	△ 16.7	0.0	0.0

・国産原木の入荷動向は、スギは1月の減少から2月は横ばい、3月は増加に。ヒノキは1月の減少から2月、3月は横ばいに。カラマツは1月、2月の減少から3月は横ばいに。トドマツは1月の横ばいから2月、3月は増加に。

・スギ、ヒノキの消費動向は1月の横ばいから2月、3月は増加に。カラマツは1月、2月の横ばいから3月は増加に。トドマツは1月、2月の減少から3月は横ばいに。

・スギ、カラマツの在庫動向は1月の横ばいから2月、3月は減少に。ヒノキは3カ月連続減少。トドマツは1月の減少から2月、3月は横ばいに。

(2) 合板用原木購入価格動向 Weight. D. I.

品目	30/1月	2月	3月
スギ	8.3	20.0	20.0
ヒノキ	25.0	25.0	12.5
カラマツ	16.7	20.0	30.0
米マツ	50.0	50.0	25.0
北洋カラマツ	37.5	33.3	16.7
その他	0.0	0.0	0.0

・合板用原木の購入価格動向はスギ、ヒノキ、カラマツの国産原木はやや強含み。

・米マツ、北洋カラマツは強保合。

モニターからのコメント

(原木荷動き)

・入荷は遅れることはあったがほぼ横ばい。消費は冬場で通常より生産が落ちたため減少。入荷は通常数量だが生産が落ちた分在庫は増えた。
・仕入は全樹種において厳しく、特にカラマツ、トドマツが大変。消費は稼働入数により多少減。在庫は全樹種減。
・スギの入荷を増やし在庫を積み増しする。海上の時化により、トドマツの入荷が減っているため消費減。その分スギの消費増へ。先を見越しスギの在庫を積み増しする。
・冬場対策としてカラマツを少量増加。カラマツを主体に消費。在庫も冬場対策用に少量増加。
・1月はスギ、ヒノキ材が減少したものの計画通り入荷している。消費も計画通りで在庫は横ばい。
・年明けでスギ、ヒノキの入荷が減少するが、徐々に増加してくると思われる。稼働日が増えることにより消費も徐々に増える。スギ、ヒノキとも適正在庫なので、今の在庫をキープしていきたい。

(原木価格)

・北洋材の現地は強気。スギ、カラマツの価格は安定している。カラマツ在庫が少なく取り合いになっており、このままいけば価格は上昇するかも。
・国産原木は取り合いで価格上昇。値上げ認めざるを得ず。
・外材は上昇基調が春まで続く。それに伴い国産材も若干強含みとなると予想する。
・カラマツ、北洋カラマツとも高値で推移。
・スギ、ヒノキ、カラマツとも3月まで上昇傾向。
・市場価格は最高値、例年では1月以降値段が下がってくる。

30年1月分 合板工場の荷動き・価格先行き動向調査 2

4. 調査結果の概要

(1) 生産動向 Weight. D. I.

品目		30/1月	2月	3月
生産動向	構造用(9mm)	△ 16.7	0.0	10.0
	〃 (12mm)	△ 7.1	10.0	10.0
	〃 (15mm)	△ 21.4	0.0	8.3
	〃 (24mm)	△ 8.3	0.0	16.7
	〃 (28mm)	△ 21.4	0.0	8.3
出荷動向	構造用(9mm)	△ 16.7	10.0	20.0
	〃 (12mm)	△ 7.1	8.3	16.7
	〃 (15mm)	△ 14.3	8.3	16.7
	〃 (24mm)	△ 7.1	8.3	16.7
	〃 (28mm)	△ 14.3	8.3	16.7
在庫動向	構造用(9mm)	0.0	△ 10.0	0.0
	〃 (12mm)	△ 7.1	△ 8.3	0.0
	〃 (15mm)	△ 7.1	△ 8.3	0.0
	〃 (24mm)	△ 7.1	△ 8.3	0.0
	〃 (28mm)	△ 7.1	△ 8.3	0.0

・構造用合板の生産動向は、9mm、15mm、24mm、28mmは1月の減少から2月は横ばい、3月は増加に。12mmは1月の減少から2月、3月は増加に

・出荷動向は全品目で1月の減少から2月、3月は増加に。

・在庫動向は、9mmは1月の横ばいから2月は減少、3月は再び横ばいに。12mm、15mm、24mm、28mmは1月、2月の減少から3月は横ばいに。

(2) 構造用合板出荷価格動向 Weight. D. I.

品目	30/1月	2月	3月
構造用(9mm)	0.0	0.0	25.0
〃 (12mm)	0.0	0.0	20.0
〃 (15mm)	0.0	0.0	20.0
〃 (24mm)	0.0	10.0	20.0
〃 (28mm)	0.0	10.0	20.0

・構造用合板の出荷価格動向は全品目とも横ばい。

モニターからのコメント

(構造用合板の荷動き)

・生産が落ちた分15mmと28mmが減少。出荷は12月中旬よりトラック配車が難しく運べなかった。15mmと28mmの生産が少なく生産分は販売できた。その他は生産が落ちたが、それ以上にトラックが取れず在庫は増えた。

・稼働日、残業減にて生産減少。受注残あり生産分出荷へ。

・各品目ともフル生産を継続中。出荷は堅調で、製品在庫はなかなか増えない。

・少量生産に付き変化なし。

・稼働日、生産計画に添い生産。出荷は12mm、24mmの増加が目立ち、これに伴い12mm、24mmの在庫が減少。 ・稼働日が増えることにより生産量は増、発注状況に合わせての生産となる。

(構造用合板の価格)

・昨年10月から値上げしており、そこから横ばい。

・原料、運送含めコストアップ。

・原材料の上昇により、市況の動向次第ではいずれ値上げとなる可能性あり。

・出荷価格に変化なし。

・一部上昇するもほぼ横ばい。

・価格上昇傾向にあるが、様子見状態。